

平成30年度事業計画

本会は、ここ数年、会員の減少化傾向を受け会員増強に向けた諸活動に組織を挙げて取り組んで来た。また、経営の健全化・安定化を目指し収益事業の柱である学士会館の運営事業に注力するとともに、昨年度からは築後90年を迎える学士会館の整備に向けた課題にも取り組んでいる。

以上を踏まえ、平成30年度は以下を重点課題に掲げ精力的に取り組むとともに、事業計画に定める諸事業を着実に実施していく。

1. 平成30年度重点課題

(1) 本会の魅力作りに向けた活動の展開・継続実施

本年度も引き続き、本会の存在や活動が広く認知され、且つその存在・活動を会員にとって魅力ある、また価値あるものにするため、実施事業の一層の質的充実を図る。

本会の代表的事業である『學士會会報』及び「午餐会」「夕食会」等の講演会における内容の充実に一層努めるとともに、会員各層のニーズを踏まえた新たな企画を開発し実施して行く。

(2) 七大学及び関連同窓団体との良好な協力関係の構築と連携・協働事業の実施

会員増強のための常設委員会である「会員増強実行委員会」の提案を受け、昨年度は「学士会支部規程」を整備・制定した上で「各大学支部」を設置した（支部長は各大学総長に委嘱）。本年度は各支部の実情を踏まえ、また各大学の協力を得ながら実態ある活動の展開に取り組んでいく。

更に、七大学及び関連同窓団体との連携による組織的な入会勧誘（特に「学生会員」「準会員」への入会促進）に取り組んでいく。

(3) 学士会館の将来構想—会館整備問題についての方向付け

昨年度は、事業計画に基づき理事長の下に検討会（「会館の整備に関する検討会」）を設け、多岐にわたる視点からの検討を行なった。

本年度は、当検討会の答申を受け、各分野の専門家を委員とする新たな専門委員会（「学士会館整備検討委員会」）を設置し、会館整備に関するさまざまな選択肢についての本格的検討を進め、本年度中に一定の方向性を提示できるよう努める。

(4) 会館事業の収益改善及び会館事業を通じた大学キャンパスへの足場づくり

本会にとって収益事業の大きな柱である会館運営事業（運営は100%子会社である(株)学士会館精養軒に委託）は、厳しい事業環境の中で業績面の陰りを見せているが、一層の経営努力を重ね、収益の改善・経営の安定化に努めていく。

また、本年度よりスタートする京都大学楽友会館レストラン業務の受託運営に関し、学士会館の運営経験を活かし、委託者である大学側の期待と信頼に応えるとともに、本会にとっての課題でもある大学キャンパス内での“足場づくり”に繋げていく。

2. 事業計画

今年度は、定款に定める諸事業を着実に実施するとともに、上記の重点課題に対応するべく、以下の事業・活動に取り組んでいく。

(1) 会員向け事業及び会員サービスの展開

- 『學士會会報』『NU7』の発行及び内容の充実
- 会員限定サイト上での『學士會会報』バックナンバーの順次公開
- 午餐会・夕食会・地域講演会・その他イベントの充実・拡大
- 会員各層（若手・女性・シニア・地域等）の要望に応える企画の開発・提供
- 多様な趣味等を通じての同好会活動やその他会員による親睦・交流を目的とした自主的活動への支援

(2) 七大学及び七大学関連団体との連携及び活動支援

- 「同窓会担当役員・事務局連絡会議」開催等、七大学間の情報交換・交流支援の活動
- 大学支部規程に基づく実態的な支部活動の展開
- 各大学所在地における七大学及び同窓団体との共催等による講演会・交流会の実施
- 「全国七大学総合体育大会」協賛、七大学学生・OB団体活動に対する支援や協力
- 学士会館内で実施される七大学及び全学同窓会等の全学的催しに対する賛助金支給

(3) 会員増強に向けた活動の展開

- 春季・秋季卒業時における組織的入会勧誘の実施
- 七大学の協力による入学時の学生会員登録活動や学生会員向けイベントの実施
- 学士会館内で開催される七大学関連の会合・同窓会等に対する入会勧誘の実施
- 準会員登録活動の展開及び正会員入会の働きかけ
- 榊学士会館精養軒との連携による七大学キャンパスにおける活動拠点の形成

(4) 学士会館の整備に関する検討実施と会館の適切な維持保全

- 学士会館整備検討委員会による会館整備に関する検討実施
- 適切な劣化対応の実施
- 防災・防火体制の整備と実践的防災訓練の継続実施
- 学士会館内の環境問題への取り組み